



天皇陛下から勲章を手渡される赤崎教授(写真提供/読売新聞社)

赤崎勇教授、 文化勲章受章

巻頭
特集

青色発光ダイオード(青色LED)や青色レーザーの開発に貢献した、
理工学研究科の赤崎勇教授が2011年度の文化勲章受章者に選ばれ、
文化の日の11月3日、皇居・宮殿の「松の間」で親授式が行われました。

本学からは、2009年度の理工学研究科飯島澄男教授(カーボンナノチューブ発見者)に次ぐ2人目の快挙となりました。

受賞ラッシュの 2011年、最後に 国内最高峰の栄誉

受章者は5人で、赤崎勇教授のほか作家の丸谷才一氏、陶芸家の大樋年朗氏、日本政治外交史の三谷太郎氏、分子遺伝・分子生理学の柳田充弘氏。赤崎教授は「20世紀中の実現は困難」とされた青色LEDの研究を20年以上も続け、素子の材料に窒化ガリウムを使って1989年に世界で初めて開発に成功しました。青色LED製作は豊田合成株式会社との共同研究が進められ、1995年から量産が開始。現在はLED照明器具、携帯電話やPCの液晶パネルのバックラ

イトなどに幅広く使われています。赤崎教授は受章者発表があった10月25日、学内での共同記者会見に臨み、「文化勲章は身に余る光栄です。受章はたくさんの方の仲間の協力と、先輩のご理解、良き同僚や優秀な学生に恵まれたこと、さらに名城大学からも物心両面の大きなサポートをいただき、支えていただいたことが何よりも大きく、感謝の気持ちでいっぱいです」と喜びを語りました。

赤崎教授は、今年度、世界最大の学術団体である米国電気電子学会（略称IEEE（アイ・トリプル・イー）からエジソンメダルを贈られています。会見では、8月に米国サンフランシスコで行われた授賞式に臨んだ際、「Persistent researcher」（パーシステント・リサーチャー、不屈の研究者）という表現で紹介された体験に触れ、「パーシステントには、持続性とか、諦めない、不変のとかいろいろの意味があるが、私は不屈という言葉をあてています。その言葉で紹介されたこと、また、今年度のIEEE栄誉授賞式で「Power of Persistence」であったことにも何かの縁を感じて、自分の心が読まれた気がして驚きました」と語り、文字通り、不屈の精神で歩んできた研究人生を振り返りました。

12月17日には、名古屋観光ホテルにて受章記念講演会と祝賀会が、およそ400人が出席して盛大に開催されました。



大学内で記者会見に臨む赤崎教授



盛大に開催された受章祝賀会



「IEEEからパーシステント・リサーチャー（不屈の研究者）と紹介され、自分の心が読まれた気がしました」

名城大学大学院理工学研究科
赤崎 勇 あかさき いるむ

1929年1月30日生まれ。鹿児島県出身。京都大学理学部卒。工学博士（名古屋大学）。神戸工業（現・富士通）、名古屋大学助教授を経て松下電器産業東京研究所基礎第四研究室長などを歴任。1981年名古屋大学工学部教授、92年名城大学理工学部教授。青色発光ダイオードの基礎技術を開発し、1989年に世界初の発光に成功。C&C賞、東レ科学技術賞、朝日賞、藤原賞、ジョン・バーディン賞、京都賞などを受賞。2004年度文化功労者。

親授式後、記者会見する赤崎教授（写真提供／読売新聞社）

世界屈指の 研究者にのみ贈られる エジソンメダルを受賞

160か国、40万人の会員を擁する世界最大の学術団体である米国電気電子学会(IEEE)の2011年エジソンメダルが赤崎勇教授に贈られ、日本時間の8月21日に米国サンフランシスコで授賞式が行われました。エジソンメダルは発明王エジソンの業績をたたえて1909年

に創設された賞で、毎年世界の研究者1人に授与されます(該当者なしの年もあり、真の適任者のみを選んでいることがうかがわれます)。日本人では2000年に当時岩手県立大学学長だった西澤潤一氏の受賞以来2人目となります。今回のエジソンメダルは、赤崎教授の、今日の隆盛を極める窒化物半導体とそのpn接合による青色発光ダイオード(LED)およびレーザーなど光電子デバイスに関する独創的かつ開拓的貢献に対して贈られま

した。

赤崎教授は「歴史的にも権威のある賞をいただき、身に余る光栄です。誰もが不可能と考えていた窒化ガリウムPn接合による青色発光ダイオードを愚直に追い続け『青色発光』が実現でき、光の3原色がそろったことで、あらゆる色の表示や固体光源が可能になりました。素晴らしい研究仲間、優秀な学生、そしてよい研究環境に恵まれ、仕事ができたことを幸せに思います」とコメントしました。

JSTからは第1回 「知的財産特別貢献賞」

独立行政法人科学技術振興機構(JST)は、日本の科学技術の発展に貢献し、経済的にも大きな効果をもたらした研究成果をたたえるために創設した「知的財産特別貢献賞」の第1回受賞者に赤崎勇教授を選びました。9月13日、授賞式を東京都千代田区と同機構東京本部JSTホールで開催、赤崎教授に賞状とメダルを授与しました。

授賞式ではJSTの北澤宏一理事長、文部科学省科学技術・学術政策局の合田隆史局長、豊田合成株式会社の太田光一監査

JST知的財産特別貢献賞の賞状とメダルを掲げる赤崎教授。右はJSTの北澤理事長(当時)

独立行政法人科学技術振興機構 知的財産特別貢献賞 授賞式



の言葉を述べました。

赤崎教授は「知的財産特別貢献賞を創設した科学技術振興機構の英知に深く敬意を表すとともに、第1回の賞をいただいたことを光栄に思います。多くの皆さんの絶大な支援がなければ今日の受賞はなかっただろうというのが実感です」とあいさつしました。授賞式には本学から下山宏前学長、安藤義則理工学研究科長、船隈透学術研究支援センター長も出席しました。

役、名古屋大学の宮田隆司副学長、本学の中根敏晴学長が祝辞のあいさつに立ち、赤崎教授の業績をたたえました。中根学長は「赤崎先生は国内外の数多くの賞を受賞しながら常に高い研究意欲を維持されています。不断の努力を続けられた功績が今回の賞に結びついたものと思います。研究のさまざまな困難を『荒野を一人行くがごとくである』と語られていますが、改めて先生の長年のご努力と優れた研究成果に心から敬意を表します」と祝福



米国サンフランシスコで行われたIEEEエジソンメダルの授賞式でスピーチする赤崎教授